

かながわ高齢者保健福祉計画(第8期:2021~2023年度) 主要施策評価(自己評価・施策別評価・総合評価)

大柱	中柱	小柱 主要施策	事業 本数	自己評価					施策別評価				総合評価(案)	
				a	b	c	d	休止 等	A	B	C	D		
I 安心して元気に暮らせる社会づくり	1 地域包括ケアシステムの深化・推進	<1> 地域包括支援センターの機能強化	8	6	0	2	0	0		○				<p>■ 新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業の実施に制限があったものの、7割程度の事業が目標を達成又は概ね目標値を達成したとしており、コロナ禍にあっても着実に取り組みを進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括支援センター職員等養成研修については、オンライン開催により、目標以上を達成したものの、専門職員等派遣研修については、新型コロナウイルス感染症により会議が中止となった影響で目標値を下回った。市町村での専門職の不足が課題であり、引き続き取組みを進めていく必要がある。 ・ 医療と介護の連携の強化については、概ね順調に事業が実施できた。一方で、今後も在宅医療のニーズがさらに増加していくことから訪問看護師に必要な研修を継続的に実施し、在宅医療に対応できる訪問看護師の増員を図るなど、在宅医療の推進に向けた効果的な取組みを検討していく必要がある。 ・ 地域での支え合いの推進については、民生委員・児童委員の活動が新型コロナウイルス感染症の影響により制限された。感染防止対策を踏まえた訪問活動等を継続していく必要がある。 <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、目標を達成できなかったものがある一方、オンデマンド配信などの工夫により予定どおり開催できたものもあり、今後も新しい生活様式に対応した工夫をしていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NPO・ボランティア等との協働については、ボランティアセンターの設置主体への補助を通じて、ボランティア等の活動の促進に向けた支援を行った。高齢者の社会参加の場として、また、総合事業の多様な生活支援サービスの担い手として、NPOやボランティアの役割は重要であり、引き続き活動環境の整備に取り組む必要がある。 ・ ケアラー(介護者)への支援については、県庁内にケアラー支援庁内連絡会議を設置の上、2回会議を開催し、ケアラー支援の方向性等について検討した。 ・ 多様な住まいの確保については、順調に進捗しているが、住宅確保要配慮者円滑入居賃貸住宅については、登録戸数の増加に伴い、今後は住宅の登録内容の一層適切な管理に努めていく必要がある。
		<2> 医療と介護の連携の強化	15	6	4	5	0	0		○				
		<3> 地域での支え合いの推進	12	3	5	3	1	0		○				
		<4> NPO・ボランティア等との協働	4	1	1	0	0	2	○					
		<5> ケアラー(介護者)への支援	9	2	2	5	0	0			○			
		<6> 多様な住まいの確保	8	4	3	1	0	0	○					
		中柱計	56	22	15	16	1	2	2	3	1	0		
	2 高齢者の尊厳を支える取組みの推進	<1> 高齢者虐待防止対策の推進	6	1	0	3	1	1			○			
		<2> 権利擁護のしきみの充実	7	2	5	0	0	0	○					
		中柱計	13	3	5	3	1	1	1	0	1	0		
	3 認知症の人にやさしい地域づくり	<1> 普及啓発・本人発信支援	9	1	3	1	2	2		○				
		<2> 認知症未病改善	5	3	1	0	1	0		○				
		<3> 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援	14	2	5	5	0	2		○				
		<4> 認知症バリアフリーの推進・地域支援体制の強化・若年性認知症の人への支援	27	8	12	4	1	2		○				
		中柱計	55	14	21	10	4	6	0	4	0	0		
	4 安全・安心な地域づくり	<1> 地域における見守り体制の充実	7	1	3	2	1	0		○				
		<2> バリアフリーの街づくりの推進	7	5	1	1	0	0		○				

＜大柱＞	＜中柱＞	＜小柱＞ 主要施策	事業 本数	自己評価					施策別評価				総合評価(案)	
				a	b	c	d	休止 等	A	B	C	D		
		<3> 事故や犯罪被害などの防止	14	3	7	2	2	0						<p>ため、巡回連絡を継続して防犯指導・助言等を行う必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バリアフリーの街づくりの推進については、全体的に順調に進捗していますが、幅広歩道の整備延長については、用地の取得を伴うため、関係地権者から理解を得るのに時間がかかるなどの課題がある。 ・ 事故や犯罪被害などの防止については、県内の刑法犯認知件数は平成14年度以降、減少傾向を示しており、犯罪全体の抑制対策は順調に進捗している一方、特殊詐欺に関しては認知件数が依然、高水準で推移していることから、今後も固定電話機対策やSNSを活用した特殊詐欺の情報提供等を行うとともに、高齢者等の防犯意識を醸成する機会を継続して提供することが求められている。 ・ 災害時の要配慮者への支援の推進について、計画目標である災害時における市町村と高齢者福祉施設等との協定は目標未達となっているが、新型コロナウイルス感染症拡大下だったことが影響していると考えられる。引き続き、未締結の施設に対して協力を呼び掛けていく必要がある。 ・ 新型コロナウイルス感染症が収束しない中、引き続き民間社会福祉施設等に対する応援職員派遣体制や介護者が不在となった場合の受け入れ体制等の確保に取り組んでいく必要がある。
		<4> 災害時の要配慮者への支援の推進	5	0	3	2	0	0						
		<5> 感染症に対する備え	4	0	4	0	0	0						
		中柱計	37	9	18	7	3	0	1	4	0	0	0	
大柱計			161	48	59	36	9	9	4	11	2	0		
II	いきいきと暮らすくみづくり	1 未病改善の取組の推進	<1> 地域の多様な主体による「介護予防事業」の推進	10	5	2	1	1	1					<p>■ 新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業の実施に制限があったものの着実に取り組みを進め、参考指標である、第1号被保険者のうち、要介護2以上の者の割合は計画値を下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の多様な主体による「介護予防事業」の推進については、市町村介護予防事業支援のための人材育成事業研修が、オンラインで行ったこともあり、参加者数は目標を下回った。今後、周知方法や期間を含め、研修内容をブラッシュアップし、介護予防市町村支援事業を進めていく必要がある。 ・ 健康寿命の延伸に向けた未病改善等の取組については、地域における健康づくりの推進が新型コロナウイルス感染症の影響により、普及啓発のイベントが中止になるなど、事業展開が制限された。オンラインによる研修等の実施、動画配信による講義など工夫して実施しているが、新しい生活様式にも対応する事業運営を充実させていく必要がある。 <p>■ 計画目標である「シニア・ジョブスタイル・かながわ」でキャリアカウンセリングを利用した者の就職等進路決定率が目標値を上回るなど着実に取り組みを進めた一方、参考指標である「好きかも！を見つけよう」のページビュー数は、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント等の開催が見送られたことから、目標値を下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域共生社会の実現に向けた活動への支援については、若手高齢者や未加入高齢者に老人クラブ活動に関心を持ってもらえるよう、積極的な情報発信を行うなど、加入促進を図る必要がある。 ・ シニア・ジョブスタイル・かながわ」でキャリアカウンセリングを利用した者の就職等進路決定率は目標値を達成した。また、離職者等委託訓練事業はR3から中高年優先枠を廃止したものの、45歳以上の割合は減少しておらず、定員充足率は90%であったことから、おおむね順調に推移している。 <p>■ 共生共創事業の公演等の参加者数及び高齢者のスポーツ等の交流大会である、かながわシニアスポーツフェスタの参加者数はコロナ禍であってもおおむね順調に進捗するなど、着実に取り組みを進めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共生共創事業については、コロナ禍という制約の中で、高齢者や障がい者等が出演する演劇やダンス作品を動画配信することで多くの方の視聴につながった。また、かながわシニアスポーツフェスタは、コロナの影響により、31種目のうち10種目が中止となったが、目標値の4,000人に対し、3,645人が参加し、実績値は91.1%だった。 ・ 活動・交流の場の提供については、学校の施設開放を新型コロナウイルス感染症の影響により一部中止としたが、高齢者の健康づくりの講座(ゆめクラブ大学)等をオンラインで開催するなどの取組みを進めた。
			<2> 健康寿命の延伸に向けた未病改善等の取組	25	8	6	6	5	0					
			中柱計	35	13	8	7	6	1	0	2	0	0	
	2 社会参画の推進	<1> 地域共生社会の実現に向けた活動への支援	10	2	5	0	1	2						
		<2> 就業に対する支援	3	1	2	0	0	0						
		中柱計	13	3	7	0	1	2	1	1	0	0		
	3 生涯学習・生涯スポーツの推進	<1> 生涯学習・生涯スポーツへの支援	9	1	5	1	2	0						
		<2> 活動・交流の場の提供	2	0	1	0	1	0						
		中柱計	11	1	6	1	3	0	0	1	1	0		
	大柱計			59	17	21	8	10	3	1	4	1	0	
III	介護保険サービス等の適切な提供とその基盤づくり	<1> 介護保険サービスの適切な提供と円滑な運営	3	3	0	0	0	0					<p>■ 新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業の実施に制限があったものの、介護保険サービスの適切な提供と円滑な運営に努めるとともに、介護保険審査会の開催や低所得者対策などを進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、事業所開設予定者を対象とした開設者向け説明会や、介護サービス調査事業の訪問調査が中止となった。コロナ禍における研修等については、感染防止対策を徹底した上での開催や、オンラインでの実効性のある開催などを検討する必要がある。 	
		<2> 安心して介護保険サービス等を利用できるしくみの充実	12	5	3	1	1	2						

＜大柱＞	＜中柱＞	＜小柱＞ 主要施策	事業 本数	自己評価					施策別評価				総合評価(案)
				a	b	c	d	休止 等	A	B	C	D	
		中柱計	15	8	3	1	1	2	1	1	0	0	
	2 人材の養成、 確保と資質の 向上	<1> 保健・医療・福祉の人材 の養成	11	6	3	2	0	0	○				<p>■ 新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業の実施に制限があったものの、感染症対策を講じるなどの工夫により、介護人材の養成を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健・医療・福祉の人材の養成については、介護サービス相談員現任研修は、新型コロナウイルス感染症の影響により、施設への派遣事業が休止しており、受講者が目標に達しなかった。 保健・医療・福祉の人材の確保・定着対策の充実については、介護人材の確保・定着に関し、かながわ福祉人材センターにおいて新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、就職相談会やキャリア支援専門員によるきめ細やかな相談対応、就労支援などを行った。 保健・医療・福祉の人材の資質の向上については、新型コロナウイルス感染症の影響により実地研修受入れ病院、施設の減少、参加者の減少、研修の中止などにより進捗が遅れがあった。一方、一部の研修をオンラインで実施するなど、コロナ禍にあっても取組みを進めた。
<2> 保健・医療・福祉の人材 の確保・定着対策の充実		27	9	7	5	3	3	○					
<3> 保健・医療・福祉の人材 の資質の向上		13	2	4	5	2	0			○			
中柱計		51	17	14	12	5	3	1	1	1	0		
	3 サービス提供 基盤の整備	<1> 介護保険施設等の整備	9	3	5	1	0	0	○				<p>■ 計画目標である、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等の整備計画はコロナ禍にあっても取組みを進め、概ね順調に進捗するなど、サービス提供基盤の整備を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護保険施設等の整備については、特別養護老人ホーム等の整備については、概ね計画どおり順調に進捗したが、介護老人保健施設については、1市において募集を行ったものの、募集がなかったため、市の判断により第8期中の整備は現時点では実施しないこととなった。 新型コロナウイルス感染症のまん延など、特殊な事業はあるものの、地域のニーズを踏まえての計画であるため、今後の状況を注視していく必要がある。 介護サービス事業所における災害や感染症に対する対応力の強化については、高齢者福祉施設等職員に対しオンラインで感染症対策に関する研修等を実施するとともに、社会福祉施設等応援職員派遣支援事業により、新型コロナウイルス感染症が発生した民間社会福祉施設等に対し、応援職員を円滑に派遣することで施設の機能維持を図ることができた。
<2> 施設におけるサービスの 質の向上		10	3	2	3	0	2	○					
介護サービス事業所にお ける災害や感染症に対す る対応力の強化		7	2	2	1	1	1	○					
中柱計		26	8	9	5	1	3	0	3	0	0		
	4 介護現場の 革新	<1> 介護ロボット・ICTを活用 した介護職員の負担軽減	7	3	4	0	0	0	○				<p>■ 参考指標である生活支援ロボットの導入施設数が目標値を上回るなど、着実に取組みを進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護ロボット・ICTを活用した介護職員の負担軽減については、介護ロボット公開事業所の見学者数、介護ロボット導入支援補助台数とも目標値を越え、介護ロボットの周知及び導入が進んだ。 また、生活支援ロボットについては、新型コロナウイルス感染症対策をした上で、「ロボット体験施設」の運営及び「生活支援ロボットのモニター制度」に取り組み、ロボットを身近に感じ、具体的なイメージ・有効性を感じてもらい、導入につながる一定の効果を果たした。 エビデンスに基づく介護サービス提供による介護の質の向上については、公募型ロボット実証実験支援事業の応募件数をどう増やしていくかが今後の課題である。 デジタル化等による業務効率化の推進については、新型コロナウイルス感染流行下において、各種支援金、補助金の交付申請等を電子化するなどの取組みを進めた。
<2> エビデンスに基づく介護 サービス提供による介護 の質の向上		2	1	1	0	0	0	○					
<3> デジタル化等による業務 効率化の推進		1	0	1	0	0	0	○					
中柱計		10	4	6	0	0	0	2	1	0	0		
	大柱計		102	37	32	18	7	8	4	6	1	0	
Ⅴ 市町村が行う 取組の支援 施策及び目 標値	1 自立支援・重 度化防止の 取組の支援	<1> データを活用した地域分 析支援	1	0	0	1	0	0			○		<p>■ 新型コロナウイルス感染症の影響により、計画目標として設定した研修会が中止となるなど、一部の事業で進捗が遅れがみられたものの、介護予防市町村支援委員会の開催など着実に取組みを進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> データを活用した地域分析支援については、計画目標である市町村職員を対象とした地域分析に係る研修会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、圏域別の開催はできず、オンライン形式による全市町村対象の開催のみとなった。圏域別の中止により、個別市町村に対する支援や意見交換はできなかったが、全市町村対象の研修では分析手法をテーマに市町村職員のスキルアップを図った。 自立支援・重度化防止の支援については、計画目標である介護予防市町村支援委員会の開催数、住民主体の通いの場等で活動するボランティア・専門職向け研修の修了者数はコロナ禍であっても取組みを進め、目標値を達成した。 地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた取組支援については新型コロナウイルス感染症の影響により複数の会議、研修会が中止となった。今後、在宅医療のニーズがさらに増加していくことから、在宅医療の推進に向けた効果的な取組を検討する必要がある。
		<2> 自立支援・重度化防止の 支援	2	1	0	1	0	0	○				
		地域包括ケアシステムの 深化・推進に向けた取組 支援	4	2	0	2	0	0	○				
		中柱計	7	3	0	4	0	0	0	2	1	0	

＜大 柱＞	＜中 柱＞	＜小 柱＞ 主要施策	事業 本数	自己評価					施策別評価				総合評価(案)
				a	b	c	d	休止 等	A	B	C	D	
	2 介護保険 給付適正化 の取組への 支援	＜1＞ 介護保険給付適正化の 取組への支援	3	1	0	1	0	1		○			<p>■ 新型コロナウイルス感染症の影響により、計画目標として設定した研修会の開催が目標値をした回ったものの、オンラインでの全体研修を開催するなど、取組みを進めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、当初は全体研修と圏域別研修の開催を予定していたが、オンラインでの全体研修1回の開催に留まった。 ・ 市町村間の情報交換の場の提供や市町村職員研修の回数増など、引き続き市町村の効率的・効果的な介護給付適正化事業の実施に向けた支援を行う必要がある。
		中柱計	3	1	0	1	0	1	0	1	0	0	
	大柱計		10	4	0	5	0	1	0	3	1	0	
合 計			332	106	112	67	26	21	9	24	5	0	